

平成 21 年 5 月 21 日現在

研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2006～2009
課題番号：18520270
研究課題名（和文）白居易を中心とする中唐「風流」文学の展開に関する研究
研究課題名（英文）A study of the evolution of mid Tang's *Fengliu* literature in China and Japan

研究代表者

諸田 龍美 (MOROTA TATSUMI)
愛媛大学・法文学部・准教授
研究者番号：20304701

研究分野：中国文学

科研費の分科・細目：各国文学・文学論

キーワード：白居易・風流・多情・好色・比較文学

1. 研究計画の概要

中唐文学の顕著な特徴として、男女の恋愛を肯定的に評価する「風流の美意識」が確立し定着した点を挙げることができる。本研究は、その中心的役割をになった白居易や元稹の文学作品、就中「長恨歌」や「李夫人」「鶯鶯伝」が、宋词や元曲など、恋愛を主題とする「その後の中国古典文学」に多大な影響を与えたことを明らかにしようとするものである。また中唐の「風流の美意識」は、奈良から平安にかけての国文学史の展開にも多様な影響を及ぼしたが、中でも、『伊勢物語』から『源氏物語』に至る、所謂「色好み文学」の形成と主題の深化に本質的な影響を与えていたことを論証する。さらに、馬致遠の元曲『江州司馬青衫泪雜劇』の本格的な訳注稿を完成させることも、本研究の目的である。

2. 研究の進捗状況

研究計画のうち、白居易を中心とする中唐の恋愛文学の諸相については、論文「中唐における「恋愛」の成立と展開—白居易を中心として—」において明らかにした。また中国における、その後の恋情文学の展開については、論文「中国における「多情」文学の展開—「長恨歌」を視座として」および論文「「長恨歌」よりみた中国「多情」文学の展開—〈汎愛・好色〉篇—」によって明らかにした。一方、中唐恋情文学と国文学との関連については、論文「中唐恋情文学と国文学の展開—〈風流・みやび〉篇—」、同「中唐恋情文学と国文学の展開—〈好色・色好み〉篇—」、同「伊

勢物語〈みやび〉再考—東アジア〈文化ダイナミクス〉の視点から」、同「〈もののあはれ〉の淵源—「若紫」の密通と「鶯鶯伝」等の論文によって所期の成果を挙げつつある。

3. 現在までの達成度

①当初の計画以上に進展している。
（理由）白居易を中心とする中唐恋情文学の、国文学に与えた影響が、当初予想していた以上に本質的かつ広汎なものであり、その点を課題とする、多くの研究成果を挙げることができたため。

4. 今後の研究の推進方策

研究は当初の計画に沿って行うが、国文学における「風流文学の展開」に関する研究が、所期以上の成果を挙げたために、そこに思いのほか研究時間を要し、その影響を受けて、元曲の訳注の完成が遅れている。昨年度申請した「研究計画最終年度前年度の応募」が認められたことにより、同じ課題で研究をさらに続けることとなったので、その期間中に訳注も完成させ、さらに大きな成果を挙げる予定である。

5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 12 件）

①諸田龍美、中唐における「恋愛」の成立と展開—白居易を中心として—、愛媛大学法文学部論集人文学科編、2006年、21号、25-61頁、査読無し。

②諸田龍美、中唐恋情文学と国文学の展開—〈風流・みやび〉篇—、愛媛大学法文学部論集人文学科編、2007年、22号、77-140頁、査読無し。

③諸田龍美、中唐恋情文学と国文学の展開—〈好色・色好み〉篇—、愛媛大学法文学部論集人文学科編、2007年、23号、147-177頁、査読無し。

④諸田龍美、中国における「多情」文学の展開—「長恨歌」を視座として、白居易研究年報、2007年、8号、23-41頁、査読有り。

⑤諸田龍美、〈もののはれ〉の淵源—「若紫」の密通と「鶯鶯伝」、和漢比較文学、2008年、40号、57-70頁、査読有り。

〔学会発表〕（計 3 件）

①諸田龍美、平安初期における「色好み」の台頭—中唐恋情文学からの照射、和漢比較文学学会第96回例会、2007年7月7日

②諸田龍美、〈恋愛〉和〈女性〉的日中文学—中唐和平安朝的〈文化共鳴〉—、復旦大学中文系学術講演会、2007年11月20日、復旦大学（上海市）

③諸田龍美、日中古代文学的〈文化共鳴〉—中唐与平安朝的〈女性〉和〈恋愛〉主題比較、中国人民大学國學院講演会、2008年6月15日、中国人民大学（北京市）